

2015年8月度 家計分析

提出者数 146名の提出がありました。登録者は180名、提出率は81.1%です。
前年比3名減で、前月比2名減となっています。

収入 給料は前年比で（夫）97.5%、（妻）107.3%です。年金は同じく（夫）104.7%、（妻）108.2%となっています。ゆるやかに景気回復と言われていますが、賃金の伸びは業種によってかなり差があるようです。就職戦線が数年ぶりの売り手市場に転じたと明るい話題の一方で、非正規従業員が相変わらず増加とのニュースも。また、退職後もパートアルバイトの雇用形態で働き続ける男性が増加していることが、パートアルバイト収入(夫)の前年比217.6%に表れています。

非消費支出 前年比で税金計108.0%、社会保険計103.5%でした。給料が上がらないのに年々社会保険料の掛け率だけが上がる制度、どうにかならないものでしょうか。非消費支出は家計を預かる主婦の知恵と工夫では節約できないものなので、これから益々家計を圧迫するでしょう。退職に伴い、住民税と国民年金を一括支払いされた方がいらっしまったので、住民税（妻）212.5%、国民年金(妻)521.6%と高くなっています。

消費支出 今年の8月は記録的な猛暑であったため、水・光熱費が前年比104.9%と増えています。また夏休み・お盆休み中ということもあり、食費がほぼ全ての年代において前月(7月)と比べて増えています。ちなみに食費の前年比は106.9%で、昨今の物価高が食料品にも顕著に表われているようです。交通費112.2%、教養娯楽費118.1%、理容衛生費105.7%（いずれも前年比）の数値からは、より文化的な余暇を営むなど、わずかながら景気の回復がうかがえるところです。その一方で40~50代では教育費、60代~年金世帯では交際費が相変わらずランキングの上位に入っており、暮らしぶりは今しばらく楽観できない状況です。個別内訳ではエアコン工事や扇風機・冷蔵庫の買い替え等、季節的な出費が多かったことから、住居費が今回3つの年代でランクインしています。省エネタイプの新しい電気機器はランニングコストを下げるので、光熱費削減のためには賢明な買い物かもしれませんね。

ランキング

	総 合	20~30代	40代	50代	60代	年金世帯
1	食費 71202	食費 59333	社保 72837	社保 78726	食費 74271	食費 73056
2	社保 59130	家地 50779	食費 71554	食費 67562	社保 43387	社保 40948
3	税金 41326	税金 48723	教育 70207	教育 66879	交際 37481	交際 38058
4	教娯 38099	社保 44307	家地 63354	家地 66469	教娯 35549	教娯 32076
5	教育 37783	私保 40285	税金 51109	税金 63709	職主 24738	職主 24146
6	家地 35388	教育 36427	住居 39891	教娯 48657	税金 23682	税金 20350
7	職主 33252	職主 31361	職主 39212	私保 47026	住居 18819	住居 20074